

## 【研究概要】

3次元(3D)CTの臨床応用により全身の血管解剖の評価、動脈瘤の診断が可能になった。我々もボリュームレンダリング(VR)法を用いた3DCTで間質性肺炎の胸膜病変や心不全における肺血管・リンパ管(広義間質の肥厚)の解析を行ってきた。本研究ではこの実績をもとに最新の高分解能画像を用いて全身臓器の3DCT/MRI画像を進化発展させ新しい診断方法として結実させたい。気管支、胃、腸管、胆のう、尿管、側脳室などのヴァーチャル内視鏡像も病理組織所見と対比し新たな画像所見を探求し種々の疾患の病態を解明する。